



1 課題

乳幼児期における教育・保育の向上を目指し施策の方向性を関係者が共有し、一層の質の向上を図るといった目的を達成するため、具体的な取組みについて評価方法を示す必要がある。

2 概要

本市の幼児教育・保育アクションプランの実施により、0歳から就学前までの子どもの育ちの変化を保育者がどのように担ったのか、保護者の保育の評価とともに明らかにする。

ひがしひろしま乳幼児教育・保育アクションプランとは？

「第2期東広島市子ども・子育て支援事業計画」において、重点施策の一つとして位置付けている「乳幼児期における教育・保育の質の向上」のために、目指す乳幼児の姿や施策の方向性を関係者が共有し、より一層の質の向上を図るために策定したものです。

第2期東広島市子ども・子育て支援事業計画 基本理念
つながる つなげる 育ちあいのまちづくり

○アクションプランの位置付け

「第五次東広島市総合計画」に基づく個別計画である「第2期東広島市子ども・子育て支援事業計画」の下位計画

○計画期間 令和3年度～令和6年度（4年間）

▲ひがしひろしま乳幼児教育・保育アクションプラン

アクションプランの効果検証の概念図



▲アクションプランの効果検証概念図

⇒ 保育環境に対する意識が変わっている

大学

七木田 敦

広島大学

大学院人間社会科学研究所 教授



市担当課

×

こども未来部保育課

3 研究成果 手法等の構築

乳児保育については、保育者の関わりや保護者連携などに取り組む必要があることがわかった。また、指導助言があることにより、保育の質に影響を与えることが示唆された。さらに、保育実践のアドバイザーが、アクションプランの実施を念頭においた研修の企画や保育への指導助言を行うことで、質の変容が認められた。
⇒ ひがしひろしま乳幼児教育・保育アクションプランの取組み内容の評価について策定した。

4 今後の展望・現状 担当課で事業実施

- ・ 令和5年度以降、「未来を担うこどもの育ちサポート」を事業化。幼児教育・保育の質向上のため、広島大学とともに、「乳幼児教育・保育アクションプラン」で掲げる主な取組みの実践として、モデル園への重点支援、研究者による実地指導、子どもの育ちの評定、評定に基づく各施設での研修等を実施した。
- ・ 保育所等における公開保育での外部アドバイザーからの指導助言や、大学教授等による研修の機会を設けている。